

<平成 30 年度以降入学者>

QE 受験要件・課程修了要件

- ・本研究科は、一貫制博士課程であり、その標準修業年限は 5 年である。
- ・課程修了の要件は、5 年以上在学して所定の単位(50 単位以上)を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士学位請求論文の審査及び試験に合格すること。修了要件を満たせば、「博士(総合学術)」の学位を与える。この場合、合わせて、TOEFL-iBT100 点相当の語学力を有することが要求される。
- ・2 年次末以降に実施される Qualifying Examination (以下 QE) に合格しなければ、必修科目の武者修行・PBR の履修及び博士論文の審査を受けることが出来ない。

QE の受験要件は、所定の単位(必修科目 16 単位以上及び選択科目 14 単位以上の合計 30 単位以上)を修得し、必要な研究指導を受け、合わせて TOEFL-iBT80 点の語学力を有することである。

QE 受験・課程修了に必要な単位

区分	八思分野	単位数(累計)	
		QE 受験	課程修了
必修	—	16 単位	36 単位
選択	医薬・生命	各自の専門分野を除く 5 分野についてそれぞれ 1 科目(2 単位)を選んで計 5 科目(計 10 単位)を履修すること。 他研究科等で提供される科目の中に履修すべき科目があれば、それで代用できる場合がある。なお、学部科目については、最大 2 科目 4 単位までのみ選択科目に読み替えることができる。(但し、他研究科・他学部等科目の読み替えの可否は教務委員会において審議される。)	
	情報・環境		
	理工		
	人文・哲学		
	経済・経営		
	法律・政治		
	芸術	講義 1 科目(2 単位)または文化実習 2 科目(計 2 単位)を履修すること。	
語学	英語 「グローバルコミュニケーション I・II」のいずれか 1 科目(2 単位)を履修すること。 TOEFL-iBT のスコアが 100 点以上であれば、グローバルコミュニケーション I 及び II の履修は不要である。その場合、他の科目を 1 科目(2 単位)履修し、選択科目の取得単位数を合計 14 単位以上としなければならない。		
	計	14 単位以上	
合計		30 単位以上	50 単位以上

※1 上記以外に自己の専門科目を履修することを推奨する。

※2 八思科目

総合生存学館では、「医薬・生命」「情報・環境」「理工」「人文・哲学」「経済・経営」「法律・政治」「語学」「芸術」の 8 分野(八思)にわたり、学生一人ひとりの専門分野と

経歴に合わせ、原則として研究対象としている専門分野を除く 7 分野から、それぞれ 1 科目を選択し履修する必要がある。

TOEFL- iBT

100 点に達している者を除き、少なくとも年 1 回受験し（1 年次は、入学直後に受験すること）、TOEFL-iBT Examinee Score Report の原本（確認後、返却）を提出しなければならない。

なお、最終スコアの提出期限は、毎年 2 月中旬頃となる予定である。

修士の学位授与

2 年以上在学して研究指導を受け、所定の 30 単位以上及び TOEFL-iBT80 点以上を取得しかつ特別の事情を有し、指導教員の下承がある者は、修士論文の審査を申請することが出来る。その審査及び試験に合格する者に、「修士（総合学術）」の学位を与える。

<平成 29 年度以前入学者>

進級・修了要件

- ・本研究科は、一貫制博士課程であり、その標準修業年限は5年である。
- ・進級のためには、各年次末までに、次の要件を全て満たすことが必要である。
- ・2年次・3年次に実施されるQEに合格することができない場合は、進級することができない（留年に関する取扱いは、別途通知する。）。
- ・本研究科の修了には、同課程に5年以上在籍し、研究指導の認定を受け、プログラム必修科目を含む必要単位（②で必要な単位を除く52単位以上）を修得し、学位論文の審査に合格することが必要である。この場合、合わせて、TOEFL-iBTのスコアが100点相当であること（またはこれに準ずる語学力を有すること）が要求される。

要件	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
① 進級・修了に必要な単位（累計）	16単位	24単位	44単位	48単位	52単位
② 八思科目単位（累計）			28単位	28単位	28単位
③ リーディングプログラム研究指導認定	合格	合格	合格	合格	合格
④ TOEFL-iBT		80点	90点 (推奨)	90点 (推奨)	100点 相当

① 進級・修了に必要な単位

科目区分	単位数					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	修了時
専門コア科目※1	10					10
専門科目 カテゴリーA						4以上
専門科目 カテゴリーB		4	18			12以上
共通基盤科目						6以上
特別研究Ⅰ	2					2
特別研究Ⅱ		2				2
特殊研究Ⅰ			2			2
特殊研究Ⅱ				4		4
特殊研究Ⅲ					4	4
産官連携特別セミナー（熟議）Ⅰ※2	4					4
産官連携特別セミナー（熟議）Ⅱ※2		2				2
合計	16	8	20	4	4	52

※1 専門コア科目のうち、「総合生存学概論」は必修科目である（1年次は専門コア科目の履修を優先すること）

※2 思修館プログラムの必修科目である。

② 八思科目単位（思修館プログラムの履修に必要な単位）

分野	履修要件等	単位数
医薬・生命 情報・環境 理工 人文・哲学 経済・経営 法律・政治	各自の専門分野を除く5分野についてそれぞれ2科目(4単位)を選んで履修すること。 通年4単位科目については一つで2科目分、1単位科目については二つで1科目分とする。 他研究科・他学部から提供される科目または全学共通科目の中に履修すべき科目があれば、各分野における2科目のうち1科目は、それで代用することができる(但し、その可否は教務委員会において審議される)。 詳細は、学修要覧40ページを参照すること。	20
芸術	講義1科目(2単位)、文化実習Ⅰ～Ⅲ(茶道、華道、書道)のうち、いずれか2科目(計2単位)を履修すること。	4
語学	① 英語 共通基盤科目「グローバルコミュニケーションⅠ・Ⅱ」のいずれか1科目(2単位)を履修すること。(但し、TOEFL-iBTのスコアが100点以上であれば、グローバルコミュニケーションⅡの履修に変えることができる。) ② 第二外国語 全学共通科目の中から選択し、メンター教員と相談のうえ、1科目(2単位)を履修すること。 なお、外国語検定の試験・級をもって、当該科目を履修したものとみなされる場合がある(但し、その認定は教務委員会において行う)。その申請方法・時期については、学修要覧40ページを参照すること。 外国人留学生に限り、日本語を履修することができる。 また、外国人留学生が日本語を履修したものであるとして申請することのできる外国語検定の試験・級は、「日本語能力試験N1」に限る。	4
合計単位数*		28

※八思科目28単位のうち総合生存学館開講科目で取得した22単位は、総合生存学館の進級・修了に必要な専門科目計16単位及び共通基盤科目6単位と兼ねることができる。

八思科目については、3年次終了までに7分野14科目の計28単位を修得するよう、1年次からの計画的な履修を推奨する。

【八思科目とは】

総合生存学館では、博士課程教育リーディングプログラム「京都大学大学院思修館」プログラムを履修することが必須である。

思修館プログラムでは、「医薬・生命」「情報・環境」「理工」「人文・哲学」「経済・経営」「法律・政治」「語学」「芸術」の8分野(八思)にわたり、学生一人ひとりの専門分野と経歴に合わせ、研究対象としている専門分野を除く7分野から、1～3年次においてそれぞれ2科目を選択し履修する必要がある。

③ リーディングプログラム研究指導認定

- a. 研究指導教員、研究指導委託教員、メンター／教育指導教員で構成される研究指導審査会において、評価を行う。
- b. 博士課程教育リーディングプログラム運営委員会において、研究指導の認定を行う。

④ TOEFL-iBT

100点に達している者を除き、少なくとも年1回受験し(1年次は、入学直後に受験すること)、TOEFL-iBT Examinee Score Reportの原本(確認後、返却)を提出しなければならない。

なお、最終スコアの提出期限は、毎年2月中旬頃となる予定である。

修士の学位授与

- ・2年以上在学して研究指導を受け、3年次進級要件である所定の24単位を含む合計30単位以上及びTOEFL-iBT80点以上を取得しかつ特別の事情を有し、指導教員の下承がある者は、修士論文の審査を申請することが出来る。その試験に合格した者に、「修士（総合学術）」の学位を与える。